市長と語る会を開催しました

問合せ先　企画課秘書広報係　☎㉒2212

昨年10月6日～24日までの期間において、市長と語る会を市内6地区で計7回開催し、市民の皆さまと市政に関する意見交換、質疑応答を行いました。皆さまからの貴重なご意見を今後の行政運営に反映できるよう努力してまいります。主な内容をご紹介いたします。

◎コロナ対策

Q **マスクをすることの子どもたちへの弊害。大人が積極的にマスクを外さないと子どももも外せない。**

A 子どもへの弊害については同感です。専門家曰くリスクがある人と会う時は接触には、気を付けろ。ということで、お互いに気を付け合えば、マスクを外した生活を取り戻せると思います。

◎しごとづくり

①観光産業

Q **下田で働きたいが働く場所がなく、出ていくしかない。企業誘致などをしなければ下田は終わってしまうのではないか。箱ものをつくるにも将来のことを考えた方が良い。**

A 下田には仕事がないということをよく聞くが、求人率は県内でトップクラスです。ただ、若い人が働きたいと思う仕事がない。教育を魅力化して、国際性を持った子どもを育てたい。お金を出してでも行きたいまちにしていかなければならないと思います。

Q **まちづくりは文化と共に観光が大事。市の観光ビジョンが見えてこない。イベントはどこでもやっていること。**

A 令和2年度に策定した観光戦略は2本柱となっています。一つは美しい海などの自然を生かした観光まちづくり。もう一つは開国の歴史を中心とした観光まちづくりとしており、概念論として、人の流れを生み出す上手なまちづくりを考えています。

Q **駿河湾フェリーについて、県知事が清水土肥間を延ばしてもいいという話があったと思うが、その後進捗はあったか？**

A 西伊豆からもう少し南までにならないかと要望しており、賀茂が一つになって要望していかなければならないと考えています。

②鳥獣対策

Q **鳥獣を1、2匹捕獲しても意味がない。人に慣れている鳥獣も多く逃げない。エリアを分けて一斉に捕獲作業等を行うような考えはないのか。**

A スペシャリストにアプローチし、南伊豆町と共同のプロジェクトを開始しています。一斉の捕獲作業を行っても、山は繋がっているので、他の地域に移動してしまう。共助で様々な取組を進めていくことが大切になってきます。

◎ひとづくり

①グローカル

Q **学校では様々な地域人材に協力していただいている。地域には素晴らしい方が多くいるので、子どもたちとの関わりにより学校を活性化させていきたい。小学校ではまずローカルを大事にしていきたいと考える。**

A 地方だと様々な職種に触れる機会がないが、世の中には数多くの職業があります。様々な職業を知り、触れることができるような教育をするのも、魅力ある教育の一つだと思います。

②子育て・教育

Q **新しい学校生活が始まり、通学や部活動など中学校の今の様子を教えてほしい。**

A 統合にあたって配慮したのは、通学面と部活動です。朝の時間帯の自転車通学については、今後も関係機関と協議していきます。また、部活動は15部活動となり、すべての部活で子どもたちは頑張っており、不登校などはなく、逆に休みがちだった子が通学できるようになったケースもあります。

Q **新中学校で提案。月1回地域のものを使い、子どもたちで給食作りをしてほしい。**

A 実現できたらほんとに楽しい学校になるが、子どもたちが自分で作るとなると半日がかりになると思われます。地域の食材を大事にする取組は、月1回地場産品を使った献立にするなど、現在行っています。

◎まちづくり

Q **旧町内がシャッター街になっており寂しい。これまでの取組と今後の取組を教えていただきたい。**

A まちなかのスーパーが無くなっただけで人の流れが大幅に減ったことを感じます。後継者がいないことも気になり、そこで商売をしたいと感じる成功事例を作らなくてはいけなく、魅力を追加し商店街を復活させたいと思います。商店街では耐震性がない住宅があるので、補助金を付け、住みやすくすることで成功事例を作っていきたいです。

Q **スポーツを柱としたまちづくりに力を入れてほしい。生活に余裕がないとスポーツは行えない。補助金をもっと出してスポーツに取り組みやすいようにしてほしい。**

A スポーツを活用したまちづくりでは、地域おこし協力隊2名が合宿の誘致やライフガードに力を入れています。地域の方に部活動を教えていただくことを国も進めているため、今後、地域とのつながりがより必要になります。

Q **最終的に縦貫道ができることで稲梓はどのような地域になるのだろうか？**

A 総合計画の中で地域ごとの計画を策定しています。農振農用地域はなるべく減らさず、もっと市民に地域のPRをしていければと思います。

Q **災害の関係で静岡市は断水となった。下田市としての対策はどうなっているか？**

A ライフラインについては、賀茂地域と県で検証し、課題を洗い出す会議を実施し、広域的に対策を講じていきます。水道事業は3つの柱で強靭化、持続化、安全化を行っており、市では井戸の水も使用し取水口が詰まっても数日間の断水で済むと考えています。

Q **救急車を呼んでもメディカルセンターに先生が不在で、30分以上かけて西伊豆病院が受け入れてくれたことがあった。メディカルセンターは24時間365日支援すると載っているのに医者不足を感じる。賀茂地区で交代で当直を組む等するべき。**

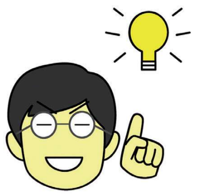
A 医師不足は確かに感じます。市では県に医師派遣の依頼をしており、救急の際はドクターヘリが利用できるが、夜や悪天候では飛べない。そのような地域に住んでいるということを自覚し、それをどう補完するのかしっかり考えていきます。

Q **救急医療の夜間利用について、下田で受け入れてもらえず遠方まで搬送されるケースが多くなる。メディカルセンターで夜間対応を充実させて欲しい。**

A メディカルセンターは民間企業であり人口に見合った人員しか配置できないため、県に医師の配慮をして欲しいと要望はしています。賀茂地区で広域で対応するしかなく、これからは、色々な病院をつなげることを進めていきます。

Q **枯草や木を燃やすと苦情が来る。清掃センターに持っていくのは労力がいる。少しくらいならゴミ焼きを容認してもらえないか。**

A 野焼きに関しては、法律で定められており、原則焼却はできないが、どんど焼きや農林業の方の焼却等については一部除外という規定になっています。燃やし方や時間帯等を工夫しながらおこなってもらう必要があります。

Q **太陽光パネルについて。旧道の崖にパネルがあるが、今取り外し作業をしている。これらに使われている材料を廃棄できずに、地中に埋めて、地下水の汚染などにつながっている。海洋汚染や環境破壊につながらないか心配している。行政として何か対策はないか。**

A メガソーラーに対する市の条例で、一定の規模を超えると同意をしないこととなっています。市として制約をして政府はソーラーパネル自体をリサイクル可能なものにしようとしており、業者もメガソーラーにしなければ商売にならない一方で、メガソーラーにすれば自然に良くないという中でバランスを考えなければならないと考えます。